

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町港塩口24
電話2-9772

生徒指導と特別活動

二学期は大きな学校行事が目白押しです。学校を訪問させていただくと、教室や廊下に学校行事に関連する掲示が見られました。掲示の内容から、意欲的に取り組もうとする子供たちの気持ちを感じました。また、行事に向けての準備や練習など、主体的に活動する子供たちの姿をたくさん見ることができました。各校の校報を拜見すると、子供たちが行事を通して、何を感じ、何を学び、自分をどのように振り返ったのかがわかりました。その子供たちの声には「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定」といった生徒指導の重要なキーワードが包含されていたように感じます。

学校行事を含めて、特別活動は児童生徒が主体として活動するところに特長があります。望ましい集団活動を通して、自主的・実践的な態度を育て、自己指導能力を養う特別活動は、生徒指導の核的な時間とも言えます。また、特別活動は活動内容によって集団の規模が様々ですが、最小の単位は学級集団であり、学級活動における能力・態度の育成は、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の成果に与える影響は少なくありません。

学級活動の充実を

本県のいじめ対応支援事業で管内の全小中学校が年2回のアンケートQ1を実施しています。その結果は児童生徒一人一人について客観的な見立てを提供しますので、日頃の観察と合わせて有効に活用していただいていることと思います。一方で、集団づくりという視点での活用はいかがでしょうか。プロットの状態を集団の姿として見た場合、学級経営案に示されている目指す集団との差異はどのようなことでしょうか。また、より望ましい集団に高めていくためのヒントは得られていくでしょうか。

集団指導と個別指導については、生徒指導提要（平成二十二年文部科学省）に「集団指導と個別指導は別々のものではなく、集団に支えられて個が育ち、個の成長が集団を進展させるように、相互作用によって、児童生徒は社会で自立するために必要な力を身に付けていける」とあります。学級活動の中でも、特に内容（一）は話し合い活動を中心として、児童生徒が自主的・実践的に学級づくりに取り組み、望ましい集団としての成長が期待できる内容です。話し合い活動の指導については、国立教育政策研究所発行の指導資料「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」「学級・学校文化をつくる特別活動（中学校編）」が参考に

「なすこと」によって学ぶ」という指導原理を持つ特別活動は、一朝一夕に成果を上げることが望みませんが、全教職員が特別活動で育てたい資質や能力、指導方法について共通理解を図り、試行錯誤を繰り返しながらも共通指導を重ねていくことが大切だと思います。これらの指導資料を活用して、指導者も「なすこと」によって学ぶ」で取り組んでみてはいかがでしょうか。（文責 濱田）

西郷小学校
《学校図書館活用教育研究事業》
☆磯小学校
《算数授業改善推進校事業》
☆五箇小学校
《金銭教育研究事業》
☆福井小学校
《複式教育推進指定校事業》
☆五箇中学校
《生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業》
各校はこれまでの研究の取組や成果を授業等にて公開しました。（三学期開催予定、来年度引き続き実施する学校もあります）
~~~~~  
二学期は学力育成とともに各行事を通して、子供たちが心身ともに大きく成長する学期となります。研究指定校をはじめ各校では、子供たちの健やかな成長のため様々な取組をされてきました。  
授業において、やはり一番大切だと感じたのは、「学習の見直しをもつこと・学習の振り返りをする」ということです。児童生徒は、何を学ぶかを理解していれば、主体的に学習に取り組むことができます。そして、学習を振り返ることで何を学んだかを実感できるようになります。また、振り返りを工夫することで友達の意見や考えのよさにも気づき、よい学級集団をつくる手助けとなったり、次の時間も頑張ろうという学習意欲の高まりも期待できます。  
その他に、普段の授業からICTの機器を活用している学校が増えてきました。しかも、少しの工夫で誰でも取り組めそうな方法です。教材提示装置とテレビモニタを使って、ポイントとなる資料を提示するだけで集中度が増し、学習への取組が変わってきます。また、少し大きめのホワイトボードを使って、グループで考えたことやまとめたことを発表したり、黒板に掲示したりしてグループ学習にうまく活用している学校も増えていきます。  
三学期は一年のまとめの学期となります。引き続き「楽しくわかる授業」への取組をよろしく願います。（文責 億岐）

